

インターバンクの声（2014年8月20日）

地政学リスクが後退気味となり、リスク志向が高まり始めた週初めからの相場が、昨日の海外市場に入ってからも続いている。イスラエルとイスラム主義組織ハマス間の、ガザでの一時停戦の約束が破られたとの報道は気掛かりだが、ウクライナからの事態悪化のニュースもなく、ニューヨーク市場朝方に発表された7月の米住宅着工件数が予想を上回ったことで、再度連邦準備制度理事会（FRB）の利上げ想定時期が前倒しされるとの見方がドル買いを促した。住宅着工件数と同時に発表された建設許可件数も強い伸びを見せたことから、米株式市場も序盤から堅調な動きとなった。為替相場では、ドル売り注文が相当金額置かれているとされた102円70銭が指標発表の際に突破できたことで、さらに売り注文が置かれていたとされた80銭も難なく超えてしまった。さすがに102円90銭を超えて103円が目前となったところで寸止め状態となったが、この後どう動くかは、アジア勢の甲斐性次第だろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。